

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	老人医療費給付事業	会計	一般会計	事業No.	266	施策順No.	35-045	
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-7-10-1			
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	保健課			
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	S50	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	老人医療費受給対象者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		所得税非課税世帯でかつ制度改正時点で老人医療費受給者証を受けていた市民	88	20	16	1	0	
	意図	医療費にかかる経済的負担の軽減						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	受給者証の交付を受けた市民の数 / 所得税非課税世帯でかつ制度改正時点で老人医療費受給者証を受けていた市民 %	59.6	90	100	0	100	0	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	新たな対象者の発生はないため、現状通りの100%の交付率となった							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	福祉医療制度の一つであり、66歳～69歳の低所得者に対し、医療機関に支払った自己負担額の一部を助成する制度 給付については、老人保健法を準用し自己負担相当額を控除して給付する。 66.67歳は市単独事業、68.69歳は県補助事業であるが、20年4月より廃止。経過措置として66.67歳は19年度資格者のみ20年7月31日まで1割給付し68.69歳はやはり経過措置として70歳年齢到達まで1割給付する。 結果として平成21年度で本事業は完全に終了する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 平成19年度末で終了した県補助事業(廃止時点で68.69歳を対象)の経過措置による給付 ※ 対象者が70歳到達の誕生日末日まで給付	1 受給者証の交付人数(年度末) 2 給付額	1 1人 2 0千円
23年度実施計画	事業終了 平成21年度受診分の給付のみ(1年間遡及請求が可能)	1 受給者証の交付人数 2 給付額	1 0人 2 60千円

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補正事項	(県)老人医療費給付事業補助金(1/2) ※平成21年度までの「一般財源」中には、他の福祉医療給付事業にかかる通信運搬費、電算委託料ほかの事務経費を含む。平成22年度以降は新規に別事業として管理
	国庫支出金						
	県支出金		33		32		
	起債						
	その他						
一般財源		34	1	33			
計(A)		67	1	65			
正規職員所要時間				1			
臨時職員等所要時間							
人件費計(B)				4			
トータルコスト A+B				5			

4 事業に対する市民や議会の意見

特になし

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援を必要とする高齢者が安心して暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせている高齢者の割合 いきいき暮らせている高齢者の割合 %
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	低所得高齢者に対し医療の一部負担金を給付した事により、早期適切な受療が可能となり、対象者が安心して暮らすための一助となった。		
	後期に向けた課題	事業廃止のため特になし		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	適切な事務処理に勤めてきた。		
	後期に向けた課題	事業廃止のため特になし		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	特になし		
	後期に向けた課題	事業廃止のため特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	保険制度を補完する事業であり、受益者負担、市の関与の程度はともに適切であった。		
	後期に向けた課題	事業廃止のため特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①主体:飯田医師会、飯田下伊那歯科医師会、飯田下伊那薬剤師会 役割:事業推進及び制度変更に係る医療機関への周知 ②行政の働きかけ:普段から連携を密にすると共に制度変更の都度、情報共有に配慮してきた。		
	後期に向けた課題	事業廃止のため特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	事業そのものが保険制度移行に伴う激変緩和の意義を備えたものであり、且つ、後半は平成20年度7月時点の実質的な事業廃止を踏まえて、経過措置としての事業運営をしてきたことから、着実な事務により目的を果たしてきたが、とりわけ後半の2年間は政策的事業でありながら経常的な事業進行を行ってきた。		
	後期に向けた課題	事業廃止のため特になし		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input checked="" type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------